第一編　総説

総　　　説

沿　革　八尾市は上古「箭尾」又は「矢尾」などと記名され、河内神別矢作連（むらじ）の本居であり矢作部（造り箭）の部民の住居したる所で、地名にも〝矢作〟〝弓場〟等の弓矢に関するものが多く、上古は弓削（ゆげ）郷の一部であつた。又古來より大寺多く今は礎石のみを残す龍華寺は特に河内五大寺の一にして規模大きく称徳天皇由義宮に在りし頃度々行幸があつたと伝えられ、更に聖徳太子の遺蹟も多く現在に於ても市内に五十余ヶ寺あり、その大なるものは荘園又は寺内村を形成し寺名を地名とした所も多く仏教甚だ盛んである。

古くは国守の所領及寺院の采地であつたが、後諸藩の諸領代官に属し明治維新後大阪市農局に又河内縣或は知藩事の管轄に入り、明治4年堺縣に、同12年八尾郡役所部内となり、同14年2月大阪府の管轄に入る。同22年4月の町村制施行の際には八尾村、龍華村、久宝寺村、三木本村西郡村となる。同36年8月八尾村は町制を敷き八尾町となり、三木本村は大正2年5月大正村と改称、超えて昭和2年6月龍華村も町制をとり龍華町と改称した。その後この隣接五町村の合議により昭和23年4月1日五町村を解消しその区域を以つて市制を施行したものである。

位　置及地勢　当市は大阪市の東方にあり東住吉区と接続し東に遙か奈良縣との境を南北に走る信貴生駒の連峰を望み中河内郡南高安町及高安村に、北は布施市に南は南河内郡志紀村にそれぞれ接続した広漠たる河内平野にあり、市の南端を大和川が西に流れ、長瀬、楠根、玉串の三川は何れも大和川を源として南北に貫流し灌漑の用をなしている。

【交通】市内の南部を国鉄関西本線東西に走り、北部及東部を近畿日本鉄道大阪線これまた東西に走る。市内には大阪市バス及近畿日本鉄道バス従横に乗入り、大阪、奈良の兩市及び隣接市町村とつなぎ交通甚だ至便である。又市の従横に産業道路伸び府道、市道この間をつなぐ。

第二編　土地人口